

報告者：

薬学科4回生 実践社会薬学研究室 國府田真綾

【1日目】

1日目はインプットの日と題し、講師の方々のご講演やパネルディスカッションを拝聴した。

基調講演：「キャリアを考えることは人生を考えること」

講師：ルース・マリー・ジャーマン氏

日本から海外に向かうことがグローバル化だった80年代後半と比較し、現在は日本国内におけるグローバル化が進んでいる。顧客が変化するという事は経済が変化することであり、従来の体制からの変化が日本に求められている。多様性のあるチームとして、異なる点を楽しむ姿勢が大切である。お互いに理解できないことは誤解につながる原因になるが、文化的背景が異なる民族どうしが理解しあうためには説明と言語化が必要である。また、パーフェクトな英語を話すことよりも話のコンテンツが重要であること、第二言語で英語を話す仲間は世界のマジョリティーであることを理解し、自信をもって英語をコミュニケーションツールとして活用することが大切である。キャリア構築のコツとして、メンターを探すよりも自分がメンターされやすいオープンマインドでいること、仕事を通して資格取得等で付加価値を高めること、日本語の文章力とコミュニケーション能力を上げること、多忙はキャパシティーが広がっている証拠であること等のアドバイスをいただいた。

ご自身の経験をふまえながら、海外から見た日本社会のこれまでの現状と今後の展開、および我々日本人への熱いメッセージを伺うことができた。

パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

パネリスト：平野こずえ氏

パネリスト：山崎裕子氏

コーディネーター：生越多恵子氏

コメンテーター：ルース・マリー・ジャーマン氏

各参加者がキャリアに関する5つの質問に答える形でパネルディスカッションがなされた。「自分が描いていた仕事と実際の仕事の間ギャップは存在したか」、「過去に失敗した経験はあるか、失敗から何を学んだか」、「助けが必要なとき何か助けを得ることができたか」、「仕事を通して得られた教訓」、「大学時代にやっておくべきこと」について4人の講師の方々のご経験を踏まえたお話を伺うことができた。

情報提供「女性情報ポータルWinetの紹介と女性教育情報センター見学」

先のパネルディスカッションでもお話を伺った山崎裕子氏より、Winetのパンフレットを用いて、サイトへのアクセスでできることを伺った。女性・家庭・家族に関する国内外の資料の検索や、女性と男性に関する統計データベースの検索等が可能である。

また、女性教育情報センターは男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館と

して13万冊の図書資料、雑誌類約4000誌、新聞記事クリッピング44万件以上を所蔵しており、館内を見学しながらその説明を伺った。新聞記事クリッピングに関して、1977年より全国紙・地方紙約50紙から男女共同参画及び女性・家庭・家族の関連記事を切り抜いて整理しており、現在も職員の方が毎日50紙もの新聞にすべて目を通し、関連記事のスクラップを継続して行っているそうだ。

交流会

夕食後には、パネルディスカッションのパネリストや本セミナーの過去の参加者として企画・運営に参画しているOG企画委員の方々を交え、テーブルを移動しながら小グループ(7～8人)で意見交換を行った。ウィメンズ・フェアトレードショップ「カルテット」の取り組みについて発表があり、フェアトレードの紅茶やチョコレート等がふるまわれた。参加者はアットホームな雰囲気の中、パネリストの方々にさらに深く聞きたいことを質問したり、自分の将来についての悩みを相談しアドバイスをいただいたりしていた。参加者どうしの交流も深まる有意義な時間だった。

【2日目】

2日目はアウトプットの日と題し、講義に加えグループワーク中心のプログラムであった。

講義「働く女性を取り巻く環境～女子大学生追跡ヒアリング調査を通して～」

講師：島直子氏

日本女性の働き方について内閣府男女共同参画局データをお示しいただきながらその現状を伺った。島直子氏が行った「女子大学生追跡ヒアリング調査」より、首都圏の女子大学生14名を対象に、仕事の見通しについて、大学4年生(卒業2カ月前)～入社3年目まで追跡してヒアリング調査を行った結果が示された。

大学4年時の意識では、働き続けたいが家庭を優先したい傾向があり、管理職志向はあまり強くない。入社1年目では、仕事量が多く休みづらいことや出産・育児と仕事を両立している正社員女性(ロールモデル)がいないことなどから出産・育児のためには正社員として働き続けることは難しいと考えている女性がいる一方で、出産・育児を両立している正社員女性(ロールモデル)を間近で見て、正社員として働き続けられる実感を得た女性もいる。入社前の管理職のイメージは一面的であったことに気づき、部下を熱心に指導してくれる会社に恩返しするため管理職を目指すことを次なる目標するようである。

グループワーク①

講師：佐伯加寿美氏

参加者全員で輪になり、これまでの講演で印象に残った言葉を紙に記入し、お互いに発表し合った。A4用紙に自分の名前と学年、好きなもの、今まで一番嬉しかったことを記入し、その紙をもとに参加者とカフェスタイルで交流した。

4～5人のグループに分かれ、「キャリア形成のために自分が大切にしたいこと」を各自思

い思いに書き並べ、お互いに意見を交換したり、自分の考えを整理したりした。

この時間にもウィメンズ・フェアトレードショップ「カルテット」よりフェアトレードのおやつがふるまわれ、アットホームな雰囲気での交流がなされた。

周りには講師の方々やNVECの職員の方々、OG企画委員の方々が常に私たち参加者の「見守り隊」として、円滑に交流が進むようサポートしてくださった。

グループワーク②

講師：佐伯加寿美氏

グループワーク①を踏まえ、自分の価値観や社会との関わり、これからの目標を明確にするキャリアシートの作成を各自で行った。キャリアシートは、「自分の進みたい進路、方向性」、「自分の強み(得意)」、「自分の弱み(短所)」、「やる気スイッチが入るもの」、「自分がキャリアを考える上で大切にしたいもの」、「つながるためにあなたは何かができるか」、「自分がいつかやってみたいこと」、「自分が社会に向けてこれからどんな働きかけができるか」の8項目について、各項目2分程度で頭に浮かぶものを記入していくスタイルで作成を行った。キャリアシートを作成した後、「自分の弱み(短所)について」の項目に記入した自分の弱点について、グループのメンバーどうしでエールとなるような言葉を贈り合う時間が設けられた。その言葉はキャリアシートの裏面に花束の絵と共に記入された。

最後に、「一歩踏み出すために何が必要か、今からできることは何か」について、「見守り隊」の方々、参加者全員の前で一人1分ずつ発表を行った。

【感想】

参加者は北は宮城、南は鹿児島まで日本各地から集まっており、その学年も大学1年～院生までと幅広く、大学、学部、学年の枠を飛び込めて交流することができ非常に有意義なセミナーでした。

基調講演では、エネルギーに満ちたエールのお言葉をいただき、モチベーションが高まりました。外国人観光客の人数推移を見ても、日本国内にいながらにしてグローバル化が進んでいることを知りました。ご自身の経験から、かつての日本では外国人に対する物珍しさから差別のような言葉を受けることもあったといいます。その中で、文化の違いはあっても当然であること、郷に入っては郷に従えという言葉もあるが、自分が受け入れたくないことはNOと伝え、そのための説明を怠らないことが大切だと知りました。それが自分のアイデンティティになっていくのだそうです。多様性のあるチームで働いていくこれからの日本、世界は、お互いに違いを理解しその違いを楽しむ姿勢が重要であることを知りました。自分の将来に照らして考えてみると、例えばチーム医療では互いに尊重し合い自分の専門性を発揮しながら患者さんの治療・ケアに対して協力して取り組む姿勢が求められると思いますが、たとえそれが同じ日本人どうしであったとしても専門領域・経験・考え方・家庭などバックグラウンドが異なります。お互いの違いを理解し尊重し合う姿勢は、仕事面だけでなく、今後の人生において常に意識していきたいと思いました。実際にハワイから日本に移住され、精

力的に活躍なさっているルーシーさんのお言葉はとても説得力がありました。勇気が湧いてくるような講演でした。

パネルディスカッションでは4名の人生の先輩方の生の声を伺うことができました。社会で活躍される4人の方々はそれぞれ異なるキャリアを積み、家庭等異なるバックグラウンドをお持ちでした。しかし皆さん共通して仕事に対して真摯に取り組んでいらっしゃるという言葉の端々に感じられ、仕事や一緒に働く仲間に対して常に敬意をもって働いていらっしゃるということが強く伝わってきました。

すべてのお話が興味深く、自分の心に響くものだったのですが、特に印象深かったお話をいくつか以下に挙げます。

- ・職は自分を見つける手段であり、20～40歳は長い大学院のようなもの、40歳からはリーダーとして次世代を育て、50歳からは恩返しをするために働く。
- ・知っていることだけで仕事をしないことが大切。
- ・恐怖や緊張を感じることもあるが、「不安と共存しながらやる」ことが大切。
- ・「私なんて」「私はここまで」と線引きをしてはもったいない。
- ・迷うとき、やりたい気持ちが51%あれば、やる。
- ・先例がなくても自分が先例になる。

また、結婚を考える女性にとってパートナーの選び方は非常に重要であるが、宝くじみたいなものでもある、というような、一般的なセミナーでは伺うことのできないような率直なお話を伺うこともできました。ルーシーさんはご自分のご経験から、パートナーの「パートナーの母親に対する態度」を見るのが重要であると語られていました。

グループワークではキャリアシートの作成を通して、自分が何を大事にしたいのか、何が好きなのか、将来どういったキャリアを積んでいきたいのかということ言語化することができました。グループのメンバーから「言葉の花束」を受け取ることで自分の弱みを認めることができ、自分の弱みを相手の視点から見たときに、むしろ長所にとらえることもできるのだと知りました。

このセミナーを紹介していただいたとき、漠然と将来に不安を抱いていたので参加を決めました。このまま着実に勉強を進めて国家試験に合格し薬剤師になり、現場で経験を積んで頑張っていこう、社会人として自立していこう、という考え方を持っていました。しかし、講演を通してキャリアについて考えることの重要性を知り、バイタリティにあふれ様々なことにチャレンジしている他大学の女子大生と交流を深めることで、自分の考え方が保守的であることに気づきました。いろんなことに挑戦して自分の視野を広げたり、様々な人と関わり話し合うことで多角的に物事を考えたりすることが重要であることを知りました。仲良くなった参加者の方々と連絡先を交換し、セミナー終了後も交流が続いています。それぞれの目標に向かって応援し合えるような仲間と出会える、良い出会いの場でもあったと思います。